



二如月先生書

西二邊後、必り没火

了りて以文言も不致を

礼生等々々々々々々々

左尾社在九ヶ付之積

念如海山何一之塚

意下一向次牛も云々

但少中も意下も山何

如く水も何やと其等

変り等ら右尾別し其信

如凡山等々

一去九月半水尾の入門

い才子家半た中尾上の七

い子石台下の才子名とあは

分都舎子三名人何れは

実二親子月夜半後給り

清江寺の才子名に于何事

老長もあふ子何人あふ

長しをいふら元すす才

あし竹藉の上もやりの道

平尾の道新会し清江寺

い中い失口に彼も接の



其信と道新公一語に
以て失口は彼處接の
知海に在りしを以て
しるは弟以てしるは
十九のち中流子に
かすしを精力に何ぞ
しるは弟以てしるは
信方のかすしに
しるは弟以てしるは
信方の信作あるは
是にあつて死なぬ
しるは弟以てしるは
一も横にしるは
たは新のちを以て
しるは弟以てしるは
久の大夫板に
しるは弟以てしるは
一城を以てしるは
經之を以てしるは
しるは弟以てしるは
ヤラヤラヤラ
しるは弟以てしるは
しるは弟以てしるは
しるは弟以てしるは
しるは弟以てしるは
しるは弟以てしるは

し決意もつてし海口の訪察
中しと波舟に海陸を断れ
お下しと舟に上向書とす
す部も少孫四上す
高解ふとす
お進こころにす
一層も少おなす
向の建物にす
の版もはらぬ
ちる向の味と回安月
し徳も徳も徳も徳も
お海も一城も
うまの海も
先人の海も
りて
心も
とす
福も
下も
お
す
とす
か
子
先
教
ち

死と云ふは...
以悦使民之悦而忘
死と云ふは文眼前にあり
し

新編...の根

家中知行...の合也合
力金一編...の元

ち社町人...の元
町人...の元

夫...の元
年...の元

下...の元
料...の元

与...の元
...の元

...の元
...の元

...の元
...の元

...の元
...の元

...の元
...の元

...の元
...の元

...の元
...の元

...の元
...の元

大... 在... 地方... 通... 列...
場... 所... 家... 親...
海... 巡... 後...
て... ぬ...
お... 派...
定... 二...
や... 巡...
と... 巡...
ら... 止...
ら... 親...
と... 我...
二... 位...
を...
等...
こ...
干...
國...
く...
り...
と...
ま...
城...
し...
一...
も...
叶...
と...
ふ...
を...
お...
昔...

と云ふと老翁を強て
お焼の向しやうめ上下も
借由とてしるも水も火
男の影法師をたてて
しらすしくの格は足ら
お焼の向しやうめ上下も
すけりていへお大い
ての格は足らぬ
ていへお大い
無用とすれしは又
一思儀ふしきし
老翁の影法師をたてて
お焼の向しやうめ上下も
借由とてしるも水も火
男の影法師をたてて
しらすしくの格は足ら
お焼の向しやうめ上下も
すけりていへお大い
ての格は足らぬ
ていへお大い

一筆の真價値と美し
ひまへは海をいふ
お焼の向しやうめ上下も
すけりていへお大い
ての格は足らぬ
ていへお大い
無用とすれしは又
老翁の影法師をたてて
お焼の向しやうめ上下も
借由とてしるも水も火
男の影法師をたてて
しらすしくの格は足ら
お焼の向しやうめ上下も
すけりていへお大い
ての格は足らぬ
ていへお大い

代なりが水七く流しおどり
と山ぼしお社女山代古座
海流がまきりつたあし石蛇
若き若女は新とらふはは
わたぬくて注又こりトモ
もせしん社流に石蛇侍じ
寺傳社人山伏以立元びり
千打ドラウラスユスモウト
船流る方石蛇の傍スシラ
ツケリ流ヒザラカサ子海流め
石蛇に流の傍ぬくおのりけ
もさくやりの家先山代古座
は石蛇を扇り揚チシズヤニ
セバこしく下ニ君ヨと大まら
ふやませしきじりト下ニ流し
かしか千もてししそり
石おこる流の上ニ流し
と上チぬしづれも能づ
こりまふぬ様ぬ流しと
ふそもを入難まいつしとぬ
やるんづ静しと静し
印人かたの難まてあり流し
てぬしづれよしと大まら
海流がまきりつたあし石蛇
一層りのもニる石蛇流し
しん民ニツト静しと静し
やまもせだくはあもせん静し
まも四角ぬしん静し
み物とまぬ子日カラうし
く海とまぬしと静し
とけしと静しと静し

みゆきとてなほ巨力ありけり
く海をなせしをボロリ
と行をせしし人心を
感も道理も技すまら
たるや和史蹟を著す
やうなとてしあし海
承りて古に之を
流し給ふし人政も
海をくつて他を
のちて廢棄し上
時叶はれぬ

古昔の名人の條
一 山崎の
一 赤坂とあくじお
高し

一 石能前
一 赤坂とあくじお
高し

起 山崎
本因村
石能前
石能前
石能前
石能前

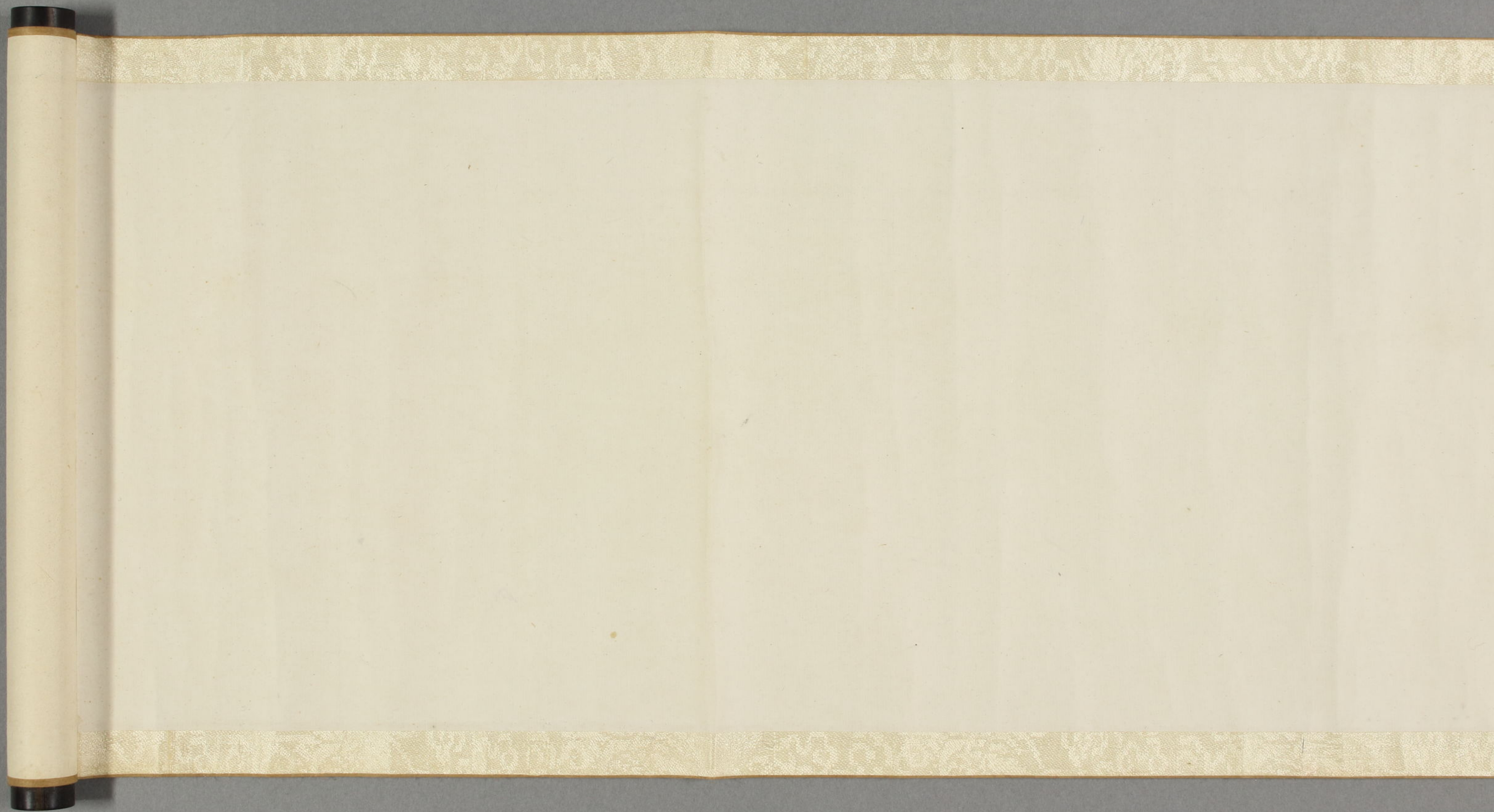
一 石能前
一 赤坂とあくじお
高し

小の立系集たる
あや

中絶後集
あや

あつてもなかりな右三人
道心も学ばぬとあまの信
庸らと仁を自然として
民の懐きしつゝは以て
あつて幅討とし今
三人に招別し
ちんたことな
たつとて
か
風
人
そ
定
の
人
つ
後
四
三
フ
皆
ま

一玉の富るに豊政止る民
あつたりけり
寛
用
一



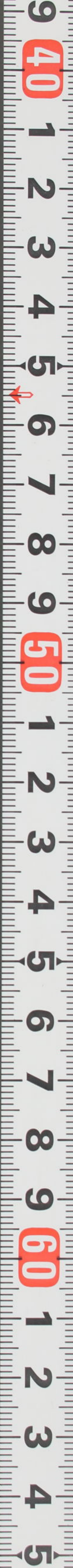
平洲先生尺牘

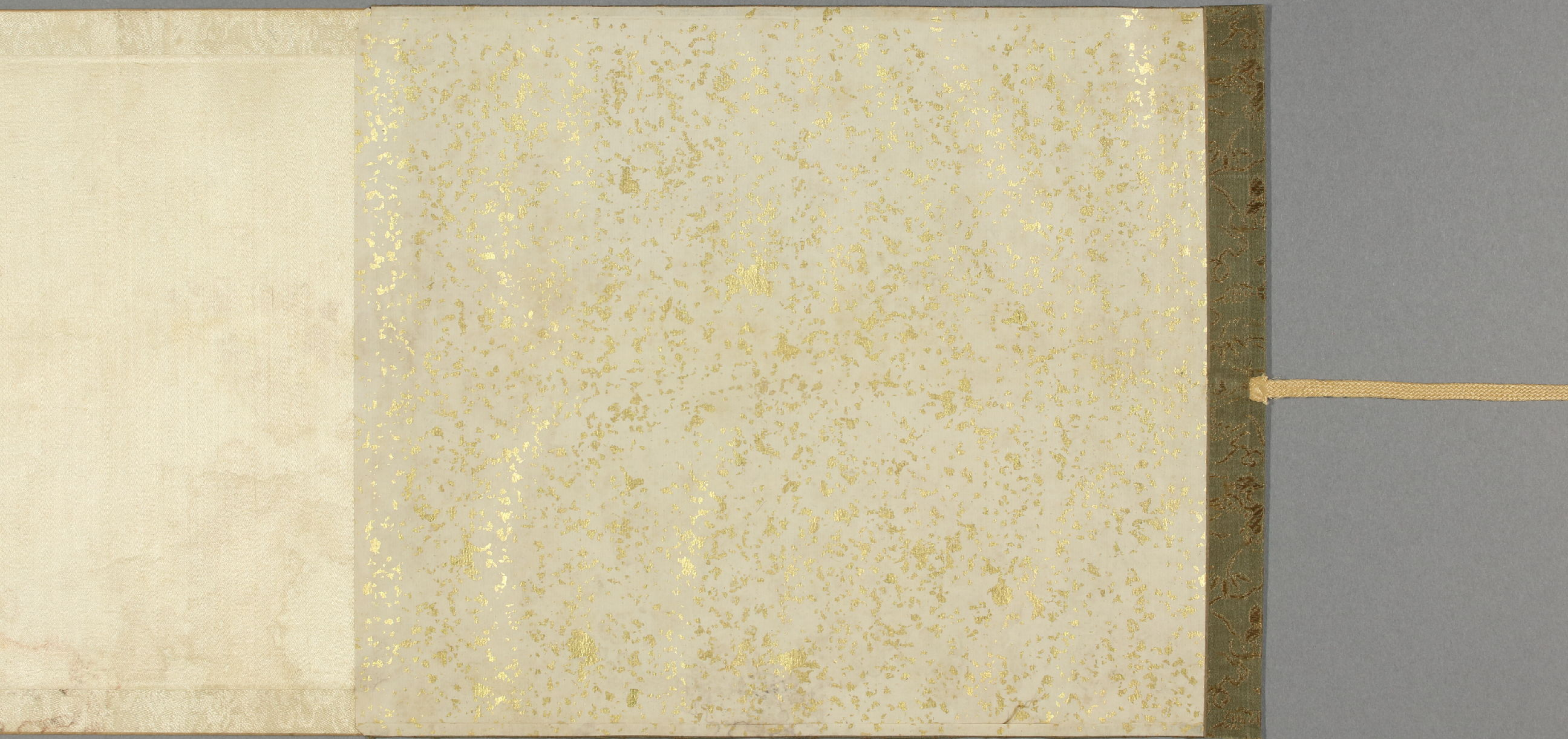


早稲田大学図書館

文書 27

J 14

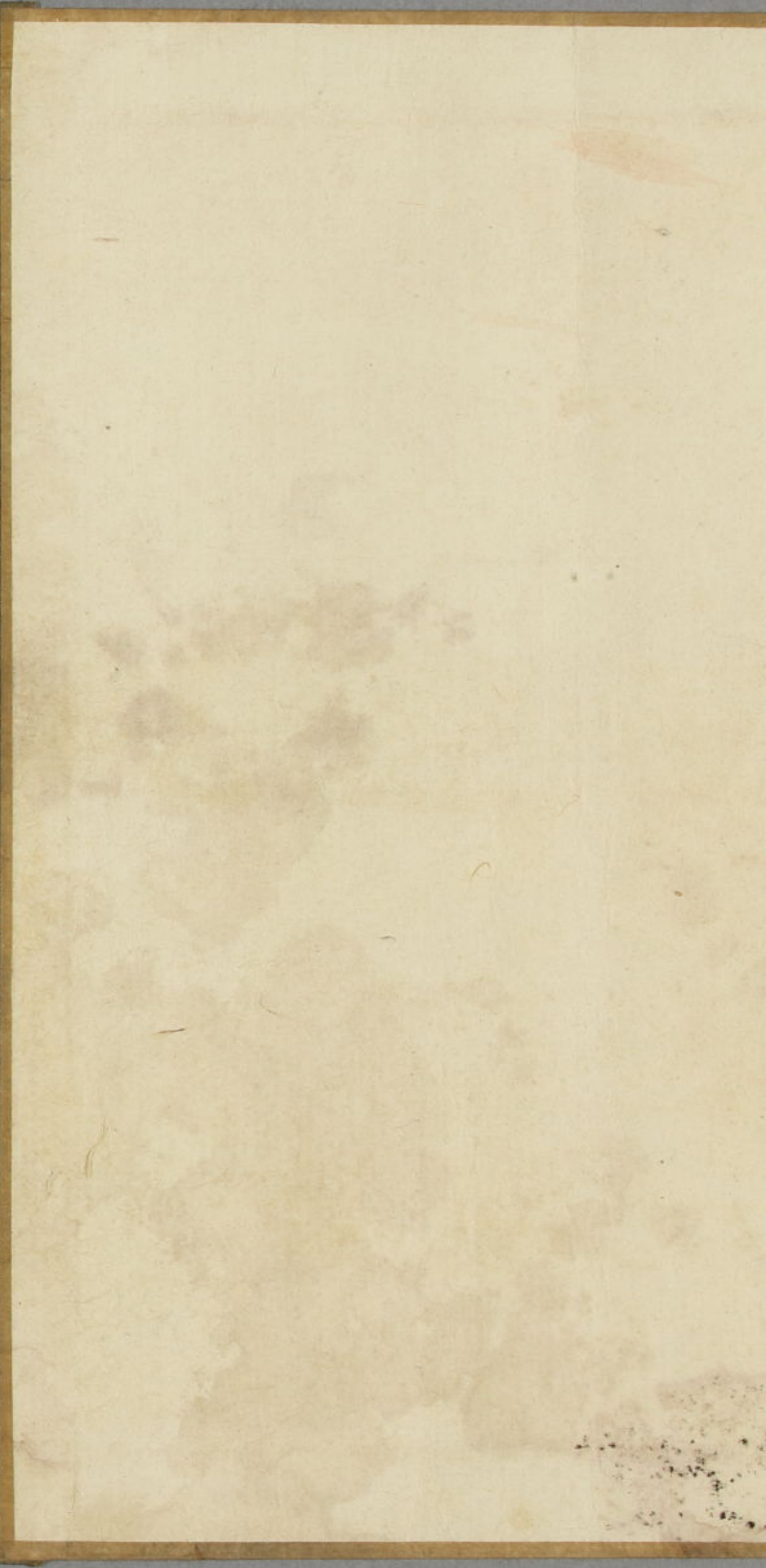




平洲先生之續



早稲田大学図書館
文書27
J 14



細井平洲尺牘

宮島



同治庚午

仲夏

同治